

財務の概況

大谷大学 大谷大学短期大学部

—大谷大学・大谷大学短期大学部 2004年度決算—

2004年度決算は、公認会計士および監事の監査を受けた上で、5月26日に開催された学校法人真宗大谷学園理事会・評議員会において承認されました。

本学の会計は、公認会計士による監査・指導を定期的に受けて処理されています。また、計算書類は、「学校法人会計基準」に従って、「資金収支計算書」「消費収支計算書」「貸借対照表」を作成しており、毎年決算承認後文部科学大臣に届け出ています。

2004年度資金収支計算書

(2004年4月1日～2005年3月31日)

(単位 円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	4,765,460,750	人件費支出	2,712,871,399
手数料収入	179,547,792	教育研究経費支出	1,264,415,181
寄付金収入	181,589,657	管理経費支出	451,483,869
補助金収入	344,829,058	借入金等利息支出	40,354,600
資産運用収入	36,203,193	分担金支出	10,000,000
資産売却収入	124,000	借入金等返済支出	141,326,000
事業収入	15,454,700	施設関係支出	10,576,650
雑収入	85,277,500	設備関係支出	111,560,006
前受金収入	838,094,000	資産運用支出	900,664,000
その他の収入	113,893,340	その他の支出	62,717,127
資金収入調整勘定	△886,283,926	資金支出調整勘定	△38,052,778
前年度繰越支払資金	6,916,287,716	次年度繰越支払資金	6,922,561,726
収入の部合計	12,590,477,780	支出の部合計	12,590,477,780

2004年度消費収支計算書

(2004年4月1日～2005年3月31日)

(単位 円)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	4,765,460,750	人件費	3,291,063,755
手数料	179,547,792	教育研究経費	2,092,935,589
寄付金	195,789,077	(うち減価償却額)	(830,377,380)
補助金	344,829,058	管理経費	476,099,905
資産運用収入	36,203,193	(うち減価償却額)	(24,490,036)
事業収入	15,454,700	借入金等利息	40,354,600
雑収入	87,412,948	分担金	10,000,000
		資産処分差額	2,786,712
		消費支出の部合計	5,913,240,561
帰属収入合計	5,624,697,518	当年度消費支出超過額	841,998,444
基本金組入額合計	△553,455,401	前年度繰越消費収入超過額	5,199,125,767
消費収入の部合計	5,071,242,117	翌年度繰越消費収入超過額	4,357,127,323

資金収支計算書

資金収支計算書は、その年度の教育研究活動などの諸活動に対応するすべての収入と支出の内容、並びにその年度内の支払資金の収入と支出の顛末を明らかにするものです。したがって、資金収入には、授業料や入学検定料、国からの補助金のほか、次年度の授業料等の前受金なども含まれます。資金支出には、人件費や教育研究にかかる経費、学生募集・広報など管理部門にかかる経費、借入金返済支出、施設関係支出、設備関係支出、貸付金支払支出などが含まれます。

資金収支の概況

2004年度の収入は、56億7400万円、支出は56億6800万円となり、翌年度繰越額は前年度額より600万円増の69億2200万円となりました。

資金収支計算書にもとづいて概要を説明いたします。

収入の部では、学生生徒等納付金収入が前年度比3.8%減の47億6500万円となり収入総額の72.6%を占めています。この減収は、学生数の定員の減少に伴って在学学生数が減少したためです。入学検定料等を含む手数料収入は、前年度比16.3%減の1億7900万円

となりました。これは、受験者数の減少によるものです。寄付金収入では、前年度とほぼ同額の1億8100万円となり収入総額の2.8%を占めています。補助金収入では国や地方公共団体からの補助で、3億4400万円余りとなり、収入総額の5.3%となっています。

支出では、人件費が27億1200万円となり前年度に比べ3400万円の減少となっています。学生の皆さんの教育研究および学生生活に直接かかわる教育研究経費は、12億6400万円となりほぼ前年度並みの額となっています。学生募集や総務、財務にかかわる管理経費は、前年度比5.8%減の4億5100万円となりました。施設関係の支出では、烏丸通電線地中化工事に伴い、烏丸通東西のキャンパス間を結ぶケーブルの配管の地中化や、3号館各部屋の電気錠のケーブルを光ケーブルにするなど、キャンパス内の環境整備に努め、1000万円を支出しました。設備関係の支出では、教育研究用の備品支出が1900万円、図書館・博物館の図書費として9000万円を支出しています。資産運用支出では、将来校舎等を整備するためや、パソコンや机・椅子等の設備の更新などのために9億円積み立てています。

消費収支計算書

消費収支計算書は、授業料や寄付金など負債とされない収入（帰属収入）と、施設・設備関係の減価償却額や資産の除却額などを含む、その年度に消費する支出（消費支出）との内容及び均衡の状態を明らかにするものです。すなわち、その年度の負債以外の収入と、人件費や諸経費などのいわゆるコストをあげ、バランスが取れているかを見るものです。

教育研究活動を提供する学校法人は、継続的な維持責任がより一層求められています。そのためには、資金収支の整合性が取れているだけでなく、帰属収入から必要な資産を継続的に保持するために組入れる基本金への組入額を引いた額（消費収入）と、消費支出とのバランスを見ることによって、当該年度だけでなく、将来的な財政の健全性を見ることが重要になってきます。この点、資金収支計算書に比べ消費収支計算書は、長期的な観点をもっているものといえます。

消費収支の概況

資金収支計算書と重複する項目を除いて説明します。寄付金では、現物寄付を金額換算して1400万円が含まれています。主に、教育後援会から1号館のAVシステムや体育館の防球ネットをご寄付いただいたものです。帰属収入の合計は、学生生徒等納付金の減収などにより、前年度比5.4%減の56億2400万円となりました。

基本金へは、施設関係、教育研究用機器備品、図書等の購入などによる2億5300万円と将来校舎を整備するための積立として3億円を組入れました。帰属収入から基本金組入額を差し引いた消費収入合計は、50億7100万円となっています。

支出では、人件費の退職給与引当金繰入額が前年度に比べ高額となっています。退職給与引当金は、教職員が退職したときに支給すべき退職金に備えて設定される引当金です。従来は期末時の要支給額の60%を基にして調整した額を計上していましたが、2004年度からは財政の健全化のために期末要支給額の100%を基にして調整した額を計上することにしたために、2004年度の退職給与引当金への繰入額は6億5400万円となりました。

支出の教育研究経費と管理経費には、建物や機器備品等の減価償却額が含まれています。教育研究経費の減価償却額は8億3000万円、管理経費の減価償却額は2400万円となっています。

2004年度は、先ほど記しましたとおり、退職給与引当金への繰入額が高額となりましたので、消費支

出合計額は59億1300万円となり消費収入合計額を上回る額となりました。

貸借対照表

学校法人の目的である教育研究活動を達成するためには、膨大な施設や設備など各種の運用財産を必要とします。貸借対照表は、これらの財産の保有状況を表し、教育研究に必要な財産が適正に維持管理されているかどうかを示すものです。この貸借対照表はその意味で重要であり、消費収支計算書とともに長期的な観点を持つものといえます。

ここでの資産は、大学が保有する土地、建物、現金預金などを示し、負債とは、借入金や退職給与引当金など、いずれ支出となって出て行くものを示します。基本金は、大学が必要な資産を永続的に維持するために、帰属収入のうちから組入れたものです。この基本金と消費収支差額の合計が正味財産となります。

貸借対照表

(2005年3月31日)

(単位 円)

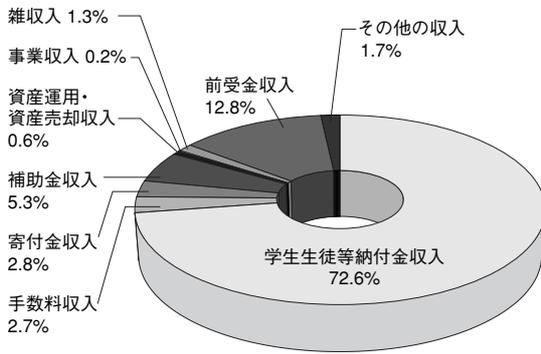
資産の部		負債及び基本金の部	
科目	2004年度末	科目	2004年度末
土地	7,895,139,063	長期借入金	1,630,950,000
建物	10,037,595,829	退職給与引当金	1,682,594,904
構築物	404,141,790	固定負債計	3,313,544,904
教育研究用機器備品	1,140,715,853	短期借入金	131,100,000
その他の機器備品	26,933,148	未払金	38,052,778
図書	2,967,238,474	前受金	838,094,000
車輛	2,973,375	預り金	58,137,729
電話加入権	2,690,372	流動負債計	1,065,384,507
施設利用権	453,081	負債の部合計	4,378,929,411
敷金	561,000		
長期貸付金	135,510,000	第1号基本金	26,689,282,622
引当特定資産	9,393,462,068	第2号基本金	2,700,000,000
固定資産計	32,007,414,053	第3号基本金	501,700,000
現金預金	6,922,561,726	第4号基本金	373,116,090
未収入金	65,735,926	基本金の部合計	30,264,098,712
貯蔵金	4,037,670		
前払金	187,071		
立替金	219,000		
流動資産計	6,992,741,393	翌年度繰越消費収入超過額	4,357,127,323
合計	39,000,155,446	合計	39,000,155,446

貸借対照表の概況

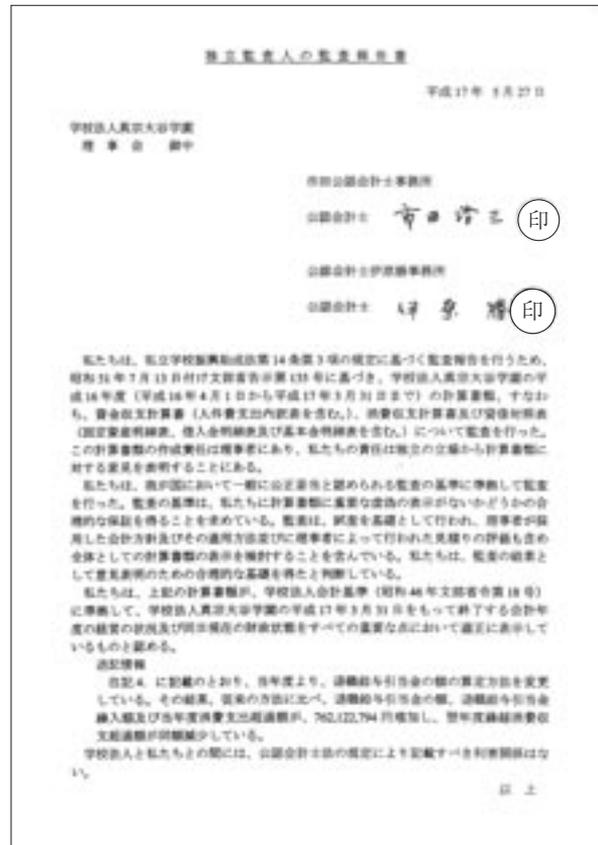
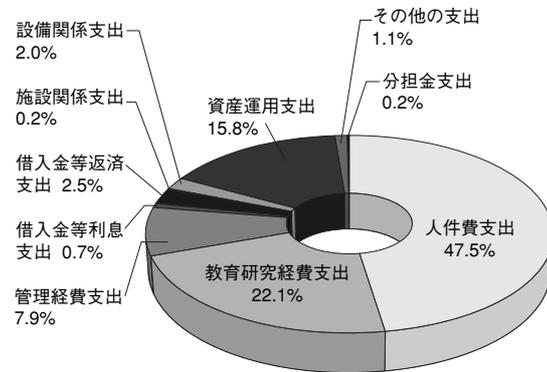
資産の総額は、390億円と、前年度に比べて1億6100万円の増加となりました。内訳は、有形固定資産が224億7400万円、その他の固定資産が95億3200万円、流動資産が69億9200万円となっています。

負債の合計は、43億7800万円と、前年度に比べて4億5000万円の増加となりました。内訳は、固定負債が33億1300万円、流動負債10億6500万円となっています。基本金は、302億6400万円と、前年度に比べて5億5300万円の増加となっています。

2004年度資金収支（収入の部）



2004年度資金収支（支出の部）



一大谷大学・大谷大学短期大学部 2005年度予算一

2005年度予算は、3月17日に開催された学校法人真宗大谷学園理事会・評議員会において承認されました。

本学は、「人間とは何か」「人間として生きるとは、どういうことか」という問いこそが何より大切であるとし、仏教精神によって自己を問うことを本学における学びの基本理念としています。2005年度もこの理念に基づき、教育研究を行うために予算を執行してまいります。

教育の面では、本年度より授業において教員を補佐するティーチングアシスタント制度を導入致しました。ティーチングアシスタントの導入によって、学生の皆さんが受講する授業において綿密な指導を受けることができるようになります。また、ティーチングアシスタントである大学院生との関係も深まり、授業時のみならず研究室における学習指導へと発展することも期待できます。さらに、ティーチングアシスタントとなる大学院生も、教育活動の補助的業務を行うことによって、各自の研究のみならず教育指導の力の発展にもつながることが期待されます。

情報環境整備では、インターネットを利用した公開講座の配信（e-ラーニング）を、今年度の1月から始めました。今年度は、本格的な運営の取り組みへ向けてさらに内容を充実させ、将来の情報環境にも積極的に取り組むよう計画しています。

また、大学内では講演会や学会など様々な行事が開催されています。それらの行事は、いずれも教材となりうる

内容をもっています。これらの行事を授業等の教材として利用できるように、収録システムを整備し、デジタル化して利用できるようにしていきます。

学生の皆さんの就職支援に関しましては、時宜に応じた就職情報の提供をはかり、就職指導の徹底とサービスの高品質化を目指します。従来の支援体制に加え、進路就職センター内に、企業で採用業務を経験した方に期間を定めて来ていただき、学生の皆さんの就職活動をサポートする体制をとります。また、新入生向けのキャリアデザインブックを作成し、入学後から進路意識を高めることによって、学生生活を充実させるとともに、進路活動に早期から取り組める環境を整えていきます。

施設関係では、バリアフリー対策として、部室棟にエレベーターの設置を予定しています。またその他にも、快適で安全なキャンパスの維持のために、各建物や設備の修繕を計画的に実施していきます。

大学就学人口の減少など大学にとって厳しい状況が続いておりますが、本学に学ぶ学生の皆さんが大学生活を送る中で、一人ひとりが「生きる力」を身につけ、輝ける人生を見つけていただけるように、キャンパス環境を整備するとともに、個性輝く大学として教育研究の一層の拡充を図ってまいります。

(事務局長 藤坂初裕)

2005年度資金収支予算書

(2005年4月1日～2006年3月31日)

(単位 円)

	収入の部		支出の部	
	科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入…授業料や、実習の際に納めてもらう実習料です。	学生生徒等納付金収入	4,619,520,000	人件費支出	2,867,952,000
資産運用収入…預金の利息や大学の施設利用料などです。	手数料収入	172,187,000	教育研究経費支出	1,383,497,000
事業収入…寮への入寮費や公開講座の受講料、就職講習の講習料などです。	寄付金収入	234,000,000	管理経費支出	497,150,000
前受金収入…次年度入学者の入学金や授業料などです。	補助金収入	334,630,000	借入金等利息支出	36,812,000
その他の収入…貸与奨学金の返還金などです。	資産運用収入	34,028,000	分担金支出	10,000,000
	事業収入	15,600,000	借入金等返済支出	131,100,000
	雑収入	70,663,000	施設関係支出	31,180,000
	前受金収入	763,910,000	設備関係支出	151,906,000
	その他の収入	91,899,000	資産運用支出	700,000,000
			その他の支出	61,960,000
			予備費	20,000,000
	資金収入調整勘定	△821,220,000	資金支出調整勘定	△40,000,000
	前年度繰越支払資金	6,922,561,726	次年度繰越支払資金	6,586,221,726
	収入の部合計	12,437,778,726	支出の部合計	12,437,778,726

施設関係支出…土地や建物等の取得にかかる支出です。

設備関係支出…大学の資産となる備品の取得にかかる支出です。教室の机、パソコン、図書などがこれにあたります。

資産運用支出…将来的な施設充実のために積立てるための支出です。

その他の支出…貸与奨学金の貸付金や前年度経費のうち年度を越えてから支払わなければならない支出のことです。

2005年度消費収支予算書

(2005年4月1日～2006年3月31日)

(単位 円)

	消費収入の部		消費支出の部	
	科目	金額	科目	金額
手数料…入学検定料や証明書発行手数料などです。	学生生徒等納付金	4,619,520,000	人件費	2,806,991,000
寄付金…有志の方々や真宗大谷派および教育後援会から寄付していただいているものが主です。	手数料	172,187,000	教育研究経費	2,184,653,000
補助金…国や京都市などからの補助金です。	寄付金	245,500,000	(うち減価償却額)	(801,156,000)
	補助金	334,630,000	管理経費	520,523,000
	資産運用収入	34,028,000	(うち減価償却額)	(23,373,000)
	事業収入	15,600,000	借入金等利息	36,812,000
	雑収入	77,406,000	分担金	10,000,000
			資産処分差額	1,866,000
			徴収不能引当金繰入額	648,000
			予備費	20,000,000
			消費支出の部合計	5,581,493,000
	帰属収入合計	5,498,871,000	当年度消費支出超過額	607,808,000
	基本金組入額合計	△525,186,000	前年度繰越消費収入超過額	4,357,127,323
	消費収入の部合計	4,973,685,000	翌年度繰越消費収入超過額	3,749,319,323

人件費…専任の教職員、非常勤講師、嘱託職員、アルバイト職員などの給与等です。

教育研究経費…教育や研究活動にかかる消耗品や通信費などの経費のことです。

管理経費…人事、総務、経理、職員の福利厚生や学生募集にかかる経費のことです。